

株主の皆様とのコミュニケーションツール

クラレ通信

第141期 2021年1-6月期 報告書

2021年1月1日～2021年6月30日 証券コード:3405

CONTENTS

- 01 | 株主の皆様へ
- 02 | 決算ハイライト
- 05 | クラレグループトピックス
- 07 | クラレの事業所探検 鶴海事業所
- 10 | 株式情報
- 10 | お知らせ
- 巻末 | 会社概要



kuraray

株主の皆様へ



代表取締役社長

川原 仁

2021年度第2四半期について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様、不自由な暮らしを強いられている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、過去に例を見ない災禍の最前線で、困難に立ち向かわれている医療関係者の皆様をはじめ、関係各位に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

当第2四半期連結累計期間（2021年1月1日～2021年6月30日）における世界経済は、依然として新型コロナウイルス感染症による影響を受け、先行き不透明な状況が続いていますが、他の国・地域に先行して持ち直しの進む米国や中国に牽引され、景気の回復が進みました。一方で、原燃料価格の高騰に加え、部材の供給不足や物流費の上昇が企業の利益を圧迫しています。当連結累計期間における当社グループの業績は、売上高は前年同期比40,290百万円（15.4%）増の302,296百万円、営業利益は10,787百万円（55.0%）増の30,398百万円、経常利益は10,858百万円（61.6%）増の28,496百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,549百万円（27.8%）増の11,710百万円となりました。

2021年度通期の業績予想につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大は依然として続いておりますが、足元の世界経済の状況および事業環境を踏まえ、2021年5月12日の第1四半期決算公表時から変更し、売上高6,100億円（+400億円）、営業利益660億円（+110億円）、経常利益610億円（+110億円）、親会社株主に帰属する当期純利益330億円（+30億円）としています。

当社グループは創立100周年となる2026年に向けた長期ビジョン「Kuraray Vision 2026」の中で、ありたい姿として「独自の技術に新たな要素を取り込み、持続的に成長するスペシャリティ化学企業」を掲げています。「Kuraray Vision 2026」の3つの基本方針「競争優位の追求」「新たな事業領域の拡大」「グループ総合力強化」に基づく具体的施策を着実に実行し、事業ポートフォリオの最適化に取り組んでまいります。2021年度は、コロナ禍における安全・安定操業に注力するとともに、前中期経営計画「PROUD 2020」期間に決定した諸施策を着実に実行してまいります。併せて、2022年度を初年度とする次期中期経営計画の策定も進めます。

また、当社は株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題と位置づけ、持続的な業績向上を通じた利益還元の増加を基本方針としています。2021年度は前中期経営計画「PROUD 2020」期間の方針を踏襲し、親会社株主に帰属する当期純利益に対する総還元性向35%以上、かつ1株につき年間配当金40円以上としています。中間配当金は期初に予定いたしました1株当たり20円とさせていただきます。当期の年間配当金につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益の予想値330億円を前提に期初公表通り1株当たり40円とさせていただきます。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

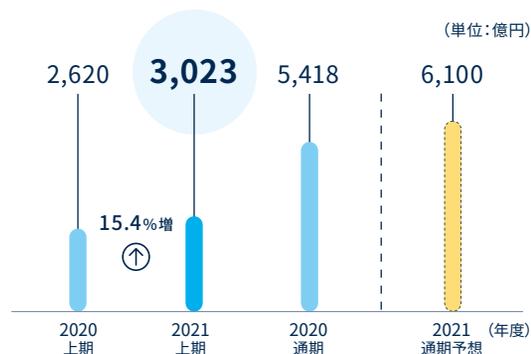
決算ハイライト

主要科目

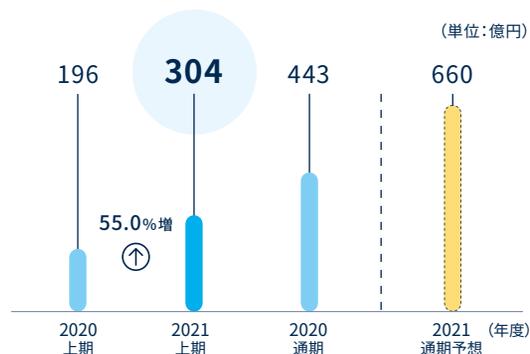
当社の2021年度上期業績は、新型コロナウイルス感染症による影響を受けながらも、米国や中国を中心に景気の回復が進んだ結果、当社グループの主力用途である自動車、電子デバイス、ディスプレイなどの需要が好調に推移し、前年同期比で増収増益となりました。

また、この事業環境は引き続き継続すると想定しており、通期業績予想を上方修正しています。

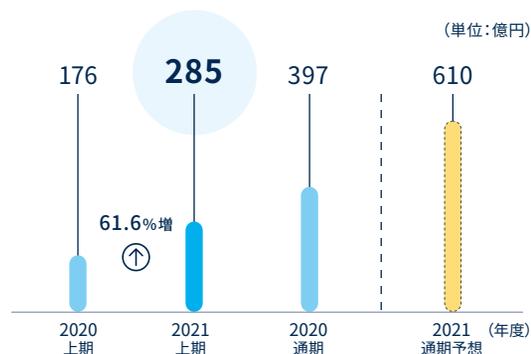
売上高



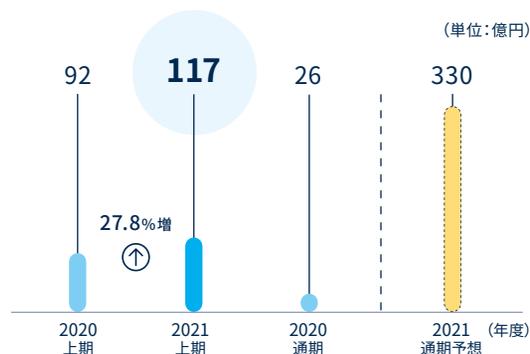
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益



各種前提

- 2020年度上期: 米ドル108円、ユーロ119円、国産ナフサ37千円/kl
- 2020年度: 米ドル107円、ユーロ122円、国産ナフサ34千円/kl
- 2021年度上期: 米ドル108円、ユーロ130円、国産ナフサ41千円/kl
- 2021年度: 米ドル106円、ユーロ127円、国産ナフサ47千円/kl

● 決算ハイライト(P.2~P.4)の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

財務情報

連結損益計算書(要約)

(単位:億円)

	2021年度上期	2020年度上期
売上高	3,023	2,620
営業利益	304	196
経常利益	285	176
親会社株主に帰属する四半期純利益	117	92
●各種前提		
円/米ドル	108	108
円/ユーロ	130	119
国産ナフサ価格(千円/kl)	41	37

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:億円)

	2021年度上期	2020年度上期
営業活動によるキャッシュ・フロー	211	121
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 326	△ 470
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 328	1,391

連結貸借対照表(要約)

(単位:億円)

	2021年6月末	2020年12月末
資産の部		
流動資産	4,331	4,612
固定資産	6,128	5,904
資産合計	10,459	10,516
負債の部		
流動負債	2,098	1,951
固定負債	2,902	3,411
負債合計	5,000	5,361
純資産の部		
株主資本	5,015	4,962
その他の包括利益累計額	262	26
その他	181	167
純資産合計	5,459	5,155
負債および純資産合計	10,459	10,516

海外売上高推移



総資産・自己資本比率

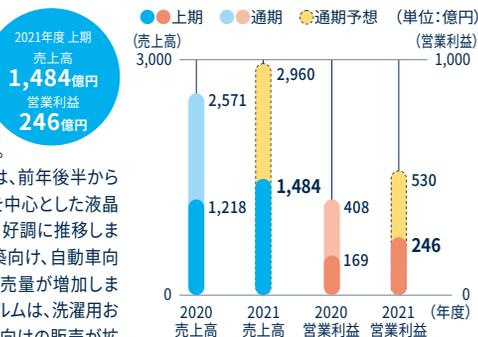


セグメント別の概況

ビニリアセテート

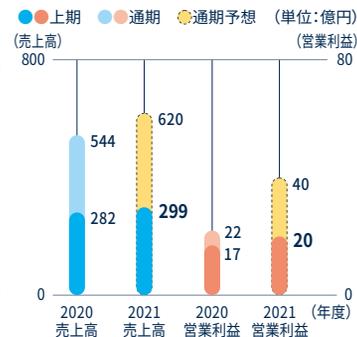
ポパール樹脂は、世界的に需要回復が進み販売量が増加しましたが、生産面では本年2月に米国南部を襲った寒波の影響を受けました。

光学用ポパールフィルムは、前年後半からの大型ディスプレイ向けを中心とした液晶パネルの需要増加により、好調に推移しました。PVBフィルムは、建築向け、自動車向けともに需要が回復し販売量が増加しました。水溶性ポパールフィルムは、洗濯用および食洗器用個包装洗剤向けの販売が拡大しました。EVOH樹脂(エパール)は、ガソリンタンク用途の需要が回復したことを受け、販売量は増加しましたが、生産面では米国南部の寒波の影響を受けました。



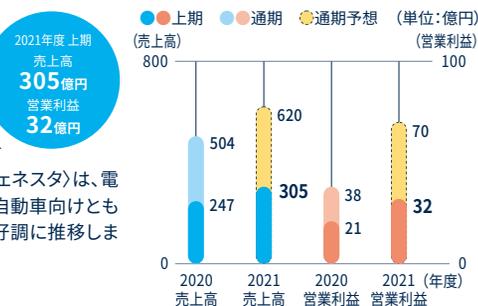
繊維

人工皮革(クラリーン)はシューズ用途、ラグジュアリー商品用途ともに需要が回復し、販売が好調に推移しました。繊維資材は、ピロンでセメント補強向け、ゴム資材向けともに需要の回復が進み、販売量が増加しました。生活資材は、(クラフレックス)で外食産業向けのカウンタークロスの需要が低調でした。



イソプレン

イソプレン関連は、ファインケミカル、熱可塑性エラストマー(セプトン)とともに、需要の回復により販売量が増加しました。耐熱性ポリアミド樹脂(ジェネスタ)は、電気・電子デバイス向け、自動車向けともに需要が伸び、販売が好調に推移しました。



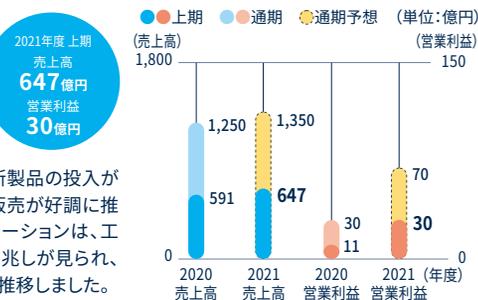
トレーディング

繊維関連事業は、資材用途は堅調でしたが、衣料用途は市況悪化の影響を受けました。樹脂・化成製品関連事業は、国内および中国を含むアジアにおける需要増により販売が好調に推移しました。



機能材料

メタクリルは、飛沫飛散防止用仕切板やディスプレイ向けなどの販売の増加に加え、市況の回復が進みました。メディカルは、歯科材料において新製品の投入が奏功し、欧米を中心に販売が好調に推移しました。環境ソリューションは、工業用途の需要に回復の兆しが見られ、活性炭の販売は堅調に推移しました。



その他

国内関連会社の販売が低調であったことにより、減収減益となりました。



TOPICS

2021年1-6月のクラレグループの主なニュースをご紹介します。

2021年1月

「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」に署名

当社は、国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」に署名し、2020年12月17日付で参加企業として登録されました。併せて、UNGCに署名している日本企業などで構成される「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン」に加入しました。UNGCは、企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することにより、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みです。UNGCに署名する企業・団体は、人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、腐敗の防止に関わる10の原則に賛同する企業トップ自らのコミットメントのもと、その実現に向けて努力を継続することが求められます。クラレグループは、企業ステートメントに基づくサステナビリティ・マネジメントを一層推進し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

2021年3月

延伸性・収縮性を高めたガスバリア性樹脂 〈エパール〉SC銘柄を開発

近年、フードロス削減のためのバリアパッケージへの関心が高まっています。当社は、その高いガスバリア性能から食品包装材に広く使用され、消費・賞味期限の延長によるフードロスの削減に貢献している〈エパール〉に、さらなる特性を付与した〈エパール〉SC銘柄を開発しました。延伸性・収縮性を高



めており、シュリンクバッグ、スキンパックなどの食品包装への展開が可能となります。

● Photo: 上・生肉シュリンクバッグ応用例、下・生肉スキンパック応用例

2021年3月

スキージャンプ・高梨沙羅選手がW杯ジャンプ 歴代最多109回の表彰台で世界記録を更新

当社スキー部所属の高梨沙羅選手が今シーズン、ノルディックスキー・ワールドカップ(W杯)ジャンプにおいて男女を通じて歴代単独最多となる109回目の表彰台に立ち、世界記録を更新。4月16日にギネス世界記録の認定を受けました。「ひとつひとつの大会をこなしてきて、気がついたら

109回になっていました。これからも、人に喜んでもらえるジャンプでもっともっと記録を伸ばしていきたい」と語る高梨選手。クラレグループはこれからも、一丸となって高梨選手を応援していきます。

● Photo: 左・当社社長川原仁、右・認定証を持つ高梨選手



2021年3月

インターナショナルカーボンプライシング制度の導入について

クラレグループの設備投資を対象に、「インターナショナルカーボンプライシング(ICP)制度」を導入しました。ICPは、社内で炭素価格を設定しCO₂排出量を費用換算することで、排出量削減、省エネルギー推進に対する経済的インセンティブを創出し、低炭素投資の推進、気候変動への対応を促すことを目的とした、企業の

自主的な取り組みです。今後、CO₂排出量の増減を伴う設備投資計画では、社内炭素価格を適用し換算した費用を投資判断におけるひとつの基準として運用し、CO₂排出量削減を推進します。

2021年 4月

「クラレの真ん中^{ハート}を知る時が来た」シリーズCM第5弾「強い街」篇を放映



2018年からスタートした企業広告キャンペーンでは、クラレグループが事業や製品を通じて社会課題の解決に貢献していることを、社員の“思い”として紹介しています。第5弾となる本作は、「強い街」がテーマ。合成繊維ピニロンによってコンクリートを粘り強くし、強い街づくりに貢献したいという社員の姿を通じて、クラレグループが、熱い

思いを持った「人」の集まりであると知ってもらえることを願っています。

Photo: 第5弾 CMカット

2021年 4月

クラレグループが第51回「織研合織賞」グランプリおよび第7回「織研天然繊維特別賞」を受賞

当社とクラレトレーディング株式会社は、第51回「織研合織賞」グランプリと第7回「織研天然繊維特別賞」をそれぞれ受賞し、4月8日にロイヤルパークホテルで贈呈を受けました。同賞は、織研新聞社が主催し、繊維業界の優れた素材、技術開発、マーケティング活動などに贈られるものです。当社は、「国産合織第一号で、70年間にわたり生産技術、製品の開発を続け、今も成長しているピニロン事業」で「織研合織賞」グランプリを、クラレトレーディングは、「軽量・高機能な「エアーかおる」タオルの開発と販売」で「織研天然繊維特別賞」を浅野燃糸株式会社と共同受賞しました。

2021年 4月

クラレ西条事業所第30回 観桜会の開催を中止、ドローンで撮影した桜の動画をWebサイトに公開

桜の満開時期に合わせて開催してきました「観桜会（場内桜並木の一般公開）」について、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、昨年に引き続き開催を中止しました。その代わりに、外出を自粛して自宅などで過ごす方々に少しでも春を感じていただけるよう、ドローンで撮影した桜の動画をWebサイトに公開。来年こそは、また例年のように桜の樹の下で皆様にお会いできることを願っています。

<https://www.kuraray.co.jp/special/sakura>

Photo: Webサイトに公開した西条事業所の桜



2021年 5月

「人とくるまのテクノロジー展2021 ONLINE」に出展

業界で大きな注目を集め、5月に開催された自動車技術展「人とくるまのテクノロジー展2021 ONLINE」に出展しました。脱炭素社会の実現に向けた動きや、CASE（つながる、自動運転、シェアリング、電動化）領域での技術革新によって、自動車業界は変革期を迎え、人とくるまの未来は大きく変化しています。当社は独自性の高い技術を「環境対応素材」「車載用電子部品」「電池関連製品」「水素・燃料電池関連技術」など11のカテゴリーで紹介しました。素材とニーズを結びつけるソリューション提案によって、お客様とともに新時代の価値創造に取り組んでいきます。

Photo: 「人とくるまのテクノロジー展2021 ONLINE」当社出展ページ



クラレの 事業所探究シリーズ 鶴海事業所

活性炭の生産・開発を通じて
持続可能な
地球環境に貢献



鶴海事業所は瀬戸内海に臨む岡山県南東部の備前市に位置しています。クラレの環境ソリューション事業を担う事業所として、ガス吸着・水処理用活性炭、省エネ・環境負荷低減に貢献する蓄電デバイスである電気二重層キャパシタ向け活性炭、リチウムイオンバッテリー負極材用ハードカーボンなどを生産しています。

主な製品群

: 世界トップシェア製品



活性炭 〈クラレコール〉

機能・特徴

ヤシ殻や瀝青炭などを原料とする微細な穴を持つ炭素材料です。製造段階で細孔をコントロールすることで、用途に応じた優れた吸着性能を発揮します。粒状からマイクロレベルの微粉末状まで、さまざまな形状で展開しています。

用途

脱臭フィルター、タバコフィルター、各種ガスの吸着除去、溶剤回収、ガソリン蒸気の飛散防止、家庭用浄水器、浄水場、排水処理など。



機能性活性炭〈クラレコール〉、 〈クラフィルター〉、〈クラクティブ〉、 〈クラシート〉など

機能・特徴

用途に応じて微粉末状、繊維状、シート状などのさまざまな形状に加工した活性炭や、特殊な金属または薬品を添着して機能付与した添着活性炭があり、電極用、浄水用、脱臭用などの多様なニーズに対応しています。

用途

電気二重層キャパシタ、電極材、溶剤回収、脱臭・浄水フィルター、浄水器、鮮度保持材、各種ガスの吸着除去、飲料水処理、純水処理、マスク、脱臭シート、空気清浄機フィルターなど。

鶴海事業所の特徴

活性炭関連事業の要

鶴海事業所では、ヤシ殻や瀝青炭を原料とする活性炭の生産・開発を担っています。その最大の強みは、活性炭の表面に電子顕微鏡でもはつきりと見えない微細孔を自在に開ける賦活技術と、さまざまな機能を付加する後加工技術です。これらの技術を生かし、環境浄化からエネルギー貯蔵まで幅広い分野で活躍する活性炭を展開しています。

2021年度より、活性炭関連事業の拡大を目的として、旧炭素材料事業部と旧カルゴン・カーボン事業部を統合し、環境ソリューション事業部が発足しました。そのなかで、鶴海事業所はその優れた生産・技術開発力を世界中の拠点に発信する役割を担っており、その位置づけはますます重要なものになっています。



窒素ガス分離装置 〈クラセップ〉

機能・特徴

酸素分子を優先的に吸着できるように細孔の大きさをコントロールした分子篩炭 (CMS) を吸着剤として使用した装置です。空気中の酸素と窒素を分離し、連続的に窒素ガスを供給することができます。

用途

化学工場での爆発防止や保安ガス、化学薬品などの酸化防止、食品包装等の保存用充填ガス、金属のレーザーカット用アシストガスなど。



ハードカーボン 〈クラノード〉

機能・特徴

一般的な黒鉛と比較して、入出力特性、低温特性、サイクル特性に優れるリチウムイオン二次電池向けハードカーボン負極材です。原料が植物のため、環境負荷低減にも貢献します。

用途

自動車、スマートフォン、タブレットPCなどのリチウムイオン二次電池の負極材のほか、リチウムイオンキャパシタ、ナトリウムイオン二次電池の負極材など。

PICK UP

ハードカーボン 〈クラノード〉

リチウムイオン二次電池向けハードカーボン負極材〈クラノード〉は、環境負荷の低い植物を原料としています。一般的な負極材である黒鉛と比較し、高速充電・放電が可能で、低温下でも優れた性能を発揮するうえ、電池の長寿命化にも寄与します。加えて、低吸湿性という特徴を有し、水系バインダーの適用が可能で、環境負荷の低減に貢献するほか、コストパフォーマンスに優れます。この新規ハードカーボンは、次世代の負極材として、今後も市場の成長が見込まれるスマートフォンやタブレットPCのバッテリーなどの民生用途、並びに自動車用途で実用評価が進んでいます。



炭素材料研究開発部

炭素材料研究開発部には、キャニスター用活性炭等の開発を担当

するオートモーティブグループ、浄水器用活性炭ぶんしふるいたん、分子篩炭(CMS)等の開発を担当する活性炭開発グループ、キャパシタ



用活性炭等の開発を担当する電池材料開発グループ、および知的財産権に関する業務を担当する知財グループがあります。炭素材料製品の開発を通じて環境・社会に貢献することを目指し、重点用途の強化・拡大に向けた製品開発、得意技術の深耕、新規用途開発に取り組んでいます。

働き方改革推進中!

多様な人材が能力を最大限に発揮し、生き生きと働ける職場環境の実現を目指し、2021年度より人材活躍やインフラ整備に関する部会を立ち上げ「はたらきやすい事業所」づくりを目指しています。人材活躍においては、「女性活躍」「障がい者雇用」「シニア活躍」などについて、前向きな議論をスタートし具体的な数値目標を掲げて取り組んでいます。また、多様性に対応した福利厚生施設の検討など、インフラの充実化についても並行して取り組んでいます。「事業所価値を高める」ことを目標に、これらの活動を着実に進めていくことにより、すべ

ての人が誇りを持って働ける事業所を目指しています。



鶴海事業所の これまでの歩み

- 1940年
中国産業株式会社創立
- 1965年
活性炭
- 1973年
クラレケミカル株式会社に社名変更
- 1980年
活性炭繊維〈クラクティブ〉
- 1982年
窒素ガス分離装置〈クラセップ〉
- 1992年
高性能瀝青炭系活性炭
- 1995年
〈クラクティブ〉カートリッジフィルター(湿式成型体)
- 1998年
活性炭シート
- 2007年
電気二重層キャパシタ用活性炭(YP)
- 2008年
浄水器向け
ファインミクロン活性炭
- 2012年
株式会社バイオハードカーボンを合併設立
- 2014年
株式会社バイオハードカーボンの新工場が完成
- 2016年
クラレが株式会社バイオハードカーボンを吸収合併
- 2017年
クラレがクラレケミカル株式会社を吸収合併

事業所長に聞く

クラレを支える 鶴海事業所のさまざまなチカラ

鶴海事業所長 柏木 俊二



1 安全への取り組みを 教えてください。

「安全はすべての礎」を行動原則に、働くすべての人が安全で安心して働ける事業所を目指しています。社員一人ひとりの「気づき」と「自分ごと化」を大切に「気づきメモ活動」や、事故を疑似体験する「安全体感研修」を通じて、危険源を察知する能力を身につけ日常作業での安全意識を高めています。また、全社員とのコミュニケーションを深化させ、本質安全化と環境負荷低減を目指した設備整備を積極的に進め、社員と地域の安心につながる活動を展開しています。

2 品質への取り組み(こだわり)を 教えてください。

「顧客満足の向上」を最大の使命として、高品質の製品を安定供給するために日々の品質管理活動に取り組んでいます。些細な内容であっても不適切なプロセスを見逃さないために、全社員へのアンケートやコンプライアンス教育を徹底し「信頼性が確保された品質保証」を目指します。また、本年度から米国カルゴン・カーボン社と品質マネジメント組織を一体化し、情報を共有化することで「グローバルな視点に立った品質保証」の強化に向けた活動も開始しています。

3 地域社会とのかかわりについて 教えてください。

当事業所は市の中心部から湾を回り約10kmの距離に位置しながら、海と山が広がる豊かな自然に囲まれた環境にあり、1940年に操業をはじめて以来、地域社会の一員として地域に根ざしたさまざまな取り組みを続けています。備前市産業フェスタや小学校に出向いて化学の楽しさを伝える「化学実験教室」、地域住民を事業所へ招待して開催するサマーフェスタ、地元「えびす駅伝競争大会」の参加者への事業所施設の提供と社員による運営支援など、交流を深めるための多くの活動を行っています。

4 今後どのような事業所を目指す のか教えてください。

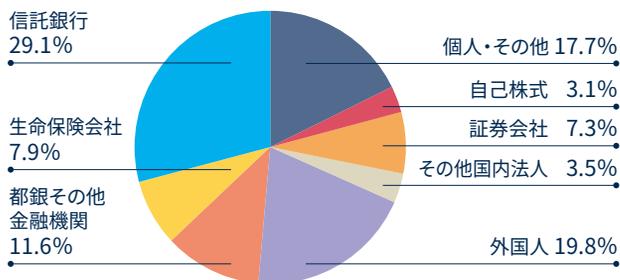
人口増加や環境変化に伴い、クリーンな水と空気に対する世界的な要求が高まっています。ヤシ殻を主体とした世界トップクラスの品質を有する活性炭生産と研究開発を担うマザー工場として、付加価値の高い製品を提供し、持続可能な地球環境に貢献する事業所でありたいと思っています。また、さらなる飛躍に向けたカルゴン・カーボン社との技術融合を通じて、事業所で働くすべての人々が成長とやりがいを感じながら、持続的に発展する「世界中の人々に必要とされる事業所」を目指しています。

株式情報 (2021年6月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
1,000,000,000株	354,863,603株	72,226名

株主構成 (持株比率)



投資家向けページのご案内



投資家情報

当社Webサイト内の投資家向けページでは、決算情報の提供に加え、決算説明会や株主総会の模様の動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。ぜひご覧ください。

<https://www.kuraray.co.jp/>

クラレ 検索

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9時~17時)

お知らせ

2022 CALENDAR

「2022年版クラレグループカレンダー」

プレゼントのご案内 **応募締め切り11月30日(火) (当日消印有効)**

2021年6月末時点の株主様のうち、希望されるすべての方にクラレグループカレンダーをプレゼントいたします。

今回は「Enjoy the View」をテーマに、和歌山県出身で世界最高峰のエベレストにも登頂した経験を持つカメラマン、上田優紀氏が撮影した世界各地の写真で構成しました。地平線まで続く広大な風景、星が降り注ぐ夜、歴史ある建物が並ぶ街並みや都会の喧騒と人々の活気がみなぎる情景。そのとき、そこに居なければ決して出会うことのない世界の眺めに心弾ませ、紙上の旅行者となって、少しでも旅気分を味わっていただければという思いを込めたカレンダーです。

カレンダーをご希望の株主様は、クラレ通信に添付されている応募はがきにお名前やご住所等の必要事項をご記入のうえ、**11月30日(火)**までにご投函をお願いいたします。(当日消印有効)

ご応募に関する注意事項

- 応募締め切りは**11月30日(火)**といたします。(当日消印有効)
締切日以降のご応募につきましてはお受けできませんので、あらかじめご了承ください。
- カレンダーのお届け時期・時間指定はできません。
- はがきを紛失した場合、再発行はできません。
- お送りするカレンダーは株主様1名につき1部とさせていただきます。
- 発送は日本国内に限らせていただきます。

お届けについての目安

- 11月上旬より、順次発送いたします。
- 諸般の事情により、予告なく発送が遅れる場合がございます。

PREMIUM GIFT

2021年12月末株主優待 (オリジナルカタログギフト) についてのご案内

2021年12月末時点の株主名簿で1,000株以上保有の株主様に当社グループの製品を使用した商品などを掲載したオリジナルカタログギフトを贈呈します。なお、カタログギフトは2022年3月末の発送を予定しております。

クラレは世界的な
ESG投資指数の
構成銘柄に
選定されています。



FTSE Blossom
Japan



FTSE4Good

2021 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2021 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

MSCI社による株式会社クラレの
MSCIインデックスへの組み入れ、
株式会社クラレによるMSCIのロゴ、
商標、サービスマークまたはイン
デックス名の使用は、MSCIまたは
その関係会社による株式会社クラレ
へのスポンサーシップ・宣伝・販売
促進を企図するものではありません。
MSCIインデックスはMSCIの独占的
財産であり、その名称、インデックス、
ロゴは、MSCI社およびその関連会社
の商標またはサービスマークです。

会社概要

社名

株式会社クラレ

英文社名

Kuraray Co., Ltd.

設立

1926 (大正15) 年6月24日

資本金

890億円 (2020年12月31日現在)

本社所在地

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-4

常盤橋タワー

TEL (03) 6701-1000 FAX (03) 6701-1005

Webサイト

<https://www.kuraray.co.jp/>

クラレグループの主な事業

ビニリアセテート

ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、
EVOH樹脂・フィルムの製造・販売

イソブレン

イソブレン系化学品、
ポリアミド樹脂の製造・販売

機能材料

メタクリル樹脂、メディカル関連製品、
炭素材の製造・販売

繊維

人工皮革、ビニロン、不織布、面ファスナー、
ポリエステル繊維の製造・販売

トレーディング

繊維製品、樹脂、化学品の輸出入・卸売

その他

水処理用高機能膜・システムの製造・販売、
エンジニアリング事業

役員 (2021年6月30日現在)

代表取締役社長	川原 仁
代表取締役・専務執行役員	早瀬 博章
取締役会長	伊藤 正明
取締役・専務執行役員	佐野 義正
取締役・常務執行役員	阿部 憲一
取締役・常務執行役員	多賀 敬治
取締役・常務執行役員	マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler)
取締役・常務執行役員	高井 信彦
取締役 (社外取締役)	浜野 潤
取締役 (社外取締役)	村田 啓子
取締役 (社外取締役)	田中 聡
取締役 (社外取締役)	井戸 清人
常勤監査役	中山 和夫
常勤監査役	上原 直哉
監査役 (社外監査役)	永濱 光弘
監査役 (社外監査役)	谷津 朋美
監査役 (社外監査役)	小松 健次
専務執行役員	豊浦 仁
専務執行役員	柏村 次史
常務執行役員	大村 章
常務執行役員	尾松 俊宏
常務執行役員	津軽 利紀
執行役員	P. スコット ベニング (P. Scott Bening)
執行役員	スティーヴン コックス (Stephen Cox)
執行役員	高野 浩一
執行役員	鈴木 一
執行役員	川原 孝春
執行役員	上山 冬雄
執行役員	渡邊 知行
執行役員	スティーヴン R. ショット (Stevan R. Schott)
執行役員	池森 洋二
執行役員	藤波 智
執行役員	坂本 和繁
執行役員	大福 幸一
執行役員	藤原 純一

- ③ 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
2.この冊子に記載の()をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。